

2.2 社会環境特性

(1) 人口

常住人口

神崎川下流ブロックの大部分を占める大阪市西淀川区は、近年、工場跡地などでの住宅開発が進んでいます。平成17年国勢調査による常住人口は、95,662人で、平成12年国勢調査の92,327人から3,335人増(約3.5%増)、65歳以上が2,980人増(約18.6%増)となっています。

西淀川区の人口推移を大阪府と比較すると、大阪府では昭和35年の約550万人から昭和50年には約828万人に急激に増え、昭和50年以降から平成19年まで883万人に緩やかに増加しています。西淀川区では、昭和40年の121,246人をピークに減少に転じ、昭和55年以降は、9万人台で推移しています。

年齢階級別には0～14歳が減少し、65歳以上が増加してきています。平成17年の国勢調査では、区内地区別で御幣島、大和田、姫里、福町が15歳未満の割合が15%以上、柏里、大野が65歳以上の割合が25%以上となっており、高齢化が進行する一方で近年の住宅開発などにより若年層が増加していると考えられます。

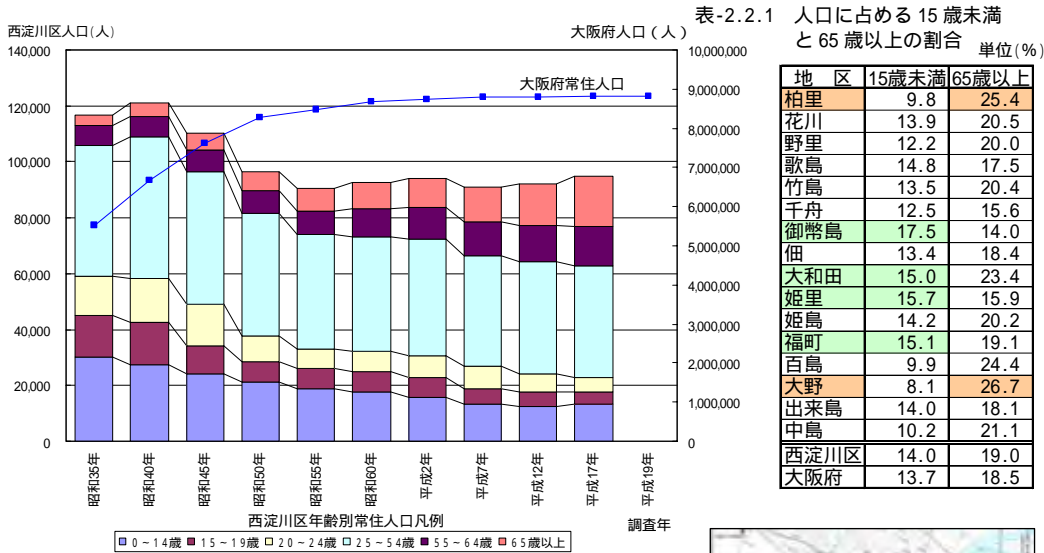
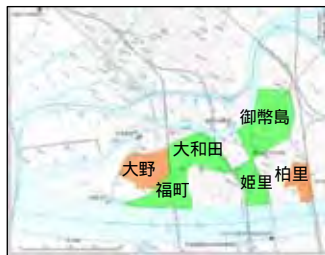


図-2.2.1 大阪府の常住人口と西淀川区の年齢別常住人口

出典：
大阪府常住人口：平成十九年度大阪府統計年鑑
西淀川区年齢別常住人口：
昭和35年～平成12年：大阪市時系列統計表、
平成16年3月、大阪市計画調整局
平成17年：平成17年国勢調査第一次基本集計結果
結果の概要 平成18年11月

WHO(世界保健機構)1956年の定義
総人口に占める65歳以上の割合
高齢化社会：7%に達した社会
高齢社会：14%に達した社会

緑：地区人口に対する15歳未満の割合が15%以上
橙：地区人口に対する65歳以上の割合が25%以上
平成17年国勢調査結果に基づく。



昼間人口

昼間人口は、昭和40年の131,073人をピークに減少し、昭和55年に一時減少に歯止めがかかったものの、平成2年より徐々に減少、平成17年では99,584人となっています。一方、大阪府の昼間人口は、昭和60年から900万人を超えて、ほぼ横ばいで、平成17年では、924万人となっています

西淀川区における昼間人口は、年齢階級別に見ると55歳未満が減少してきているのに対し、55歳以上は、徐々に増加しています。近年は工場の撤退・廃業が増えていることから、20～54歳の減少が大きくなっています。

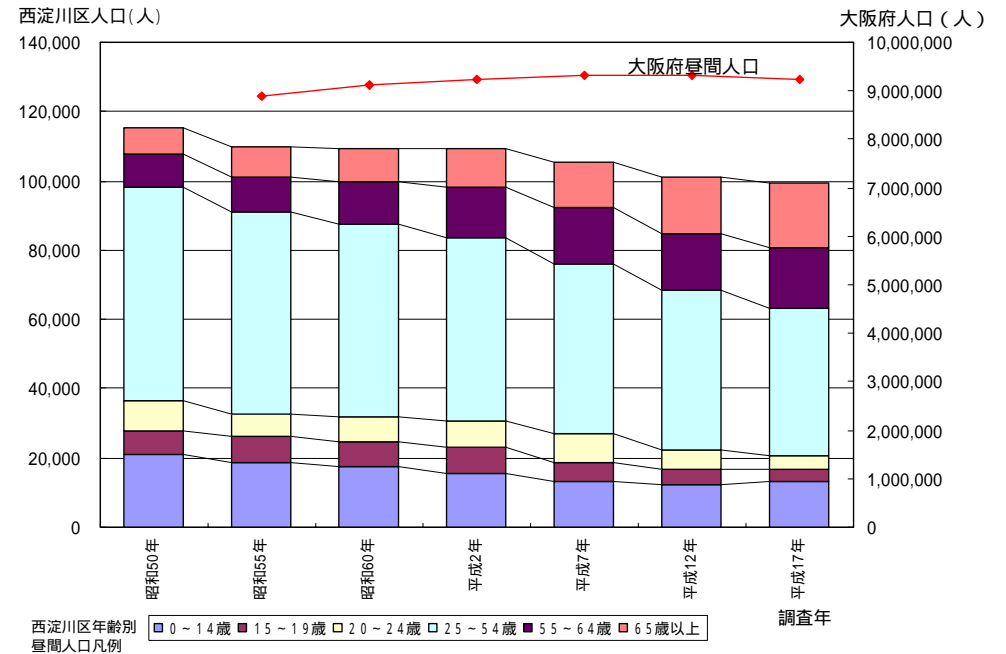


図-2.2.2 大阪府の昼間人口と西淀川区の昼間人口

出典：大阪府昼間人口：「大阪府の統計情報」(大阪府総務部統計課)データ
西淀川区年齢別昼間人口：
昭和50年～平成12年：国勢調査全国都道府県市町村人口要覧 その2
平成17年：平成19年大阪府統計書

(2) 土地利用

西淀川区は、佃地区などの一部に中高層住宅地を含む住宅地がみられますが、大部分は、阪神工業地帯に属していることもあり、工業用地が多くなっています。昭和30年代～40年代にかけて、これらの工業地帯は、大気汚染の発生源となり、深刻な公害問題を生じさせましたが、いち早く発生源対策を推進してきた結果一定の成果をあげています。汚濁の激しかった中島大水道（5.(1)参照）・大野川も、環境改善を図るため大野川緑陰道路（2.2(4)参照）として再生され、住民の憩いの場・健康づくりの場として活用されています。

平成17年調査による土地利用状況より見れば、西淀川区の工業施設は18.89%であり、大阪市全体の7.34%に比べると、圧倒的に工業施設が多く、工場地帯の様子が伺えます。

また、土地利用変化より見れば、西淀川区は、大阪市全体と同様、工業施設が減少、公園緑地、遊戯・娯楽・サービス施設、業務用地が増加している傾向にあります。

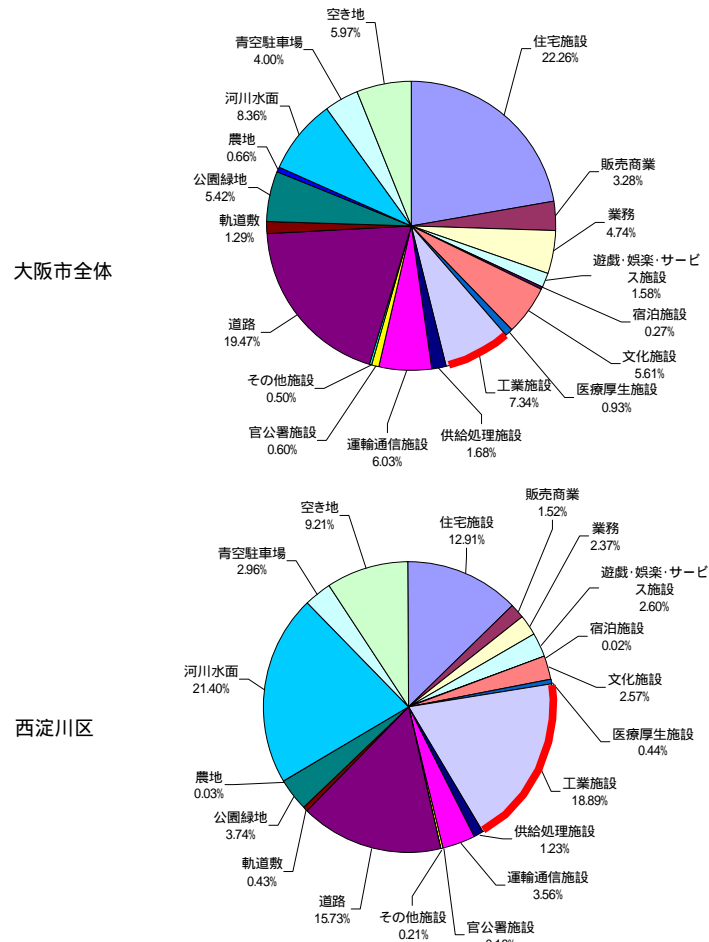


図-2.2.3 大阪市全体と西淀川区の土地利用状況
出典：平成17年度土地利用現況調査 2005年 大阪市計画調整局

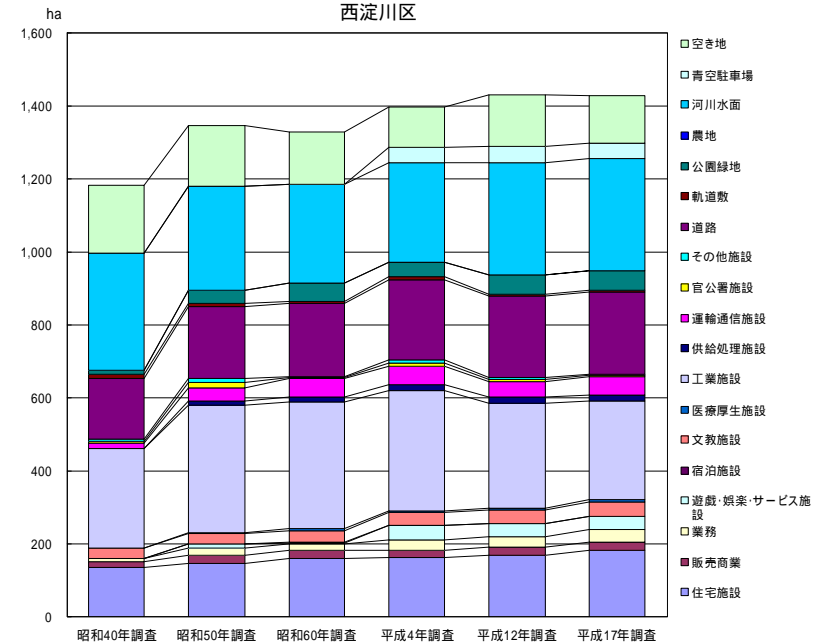
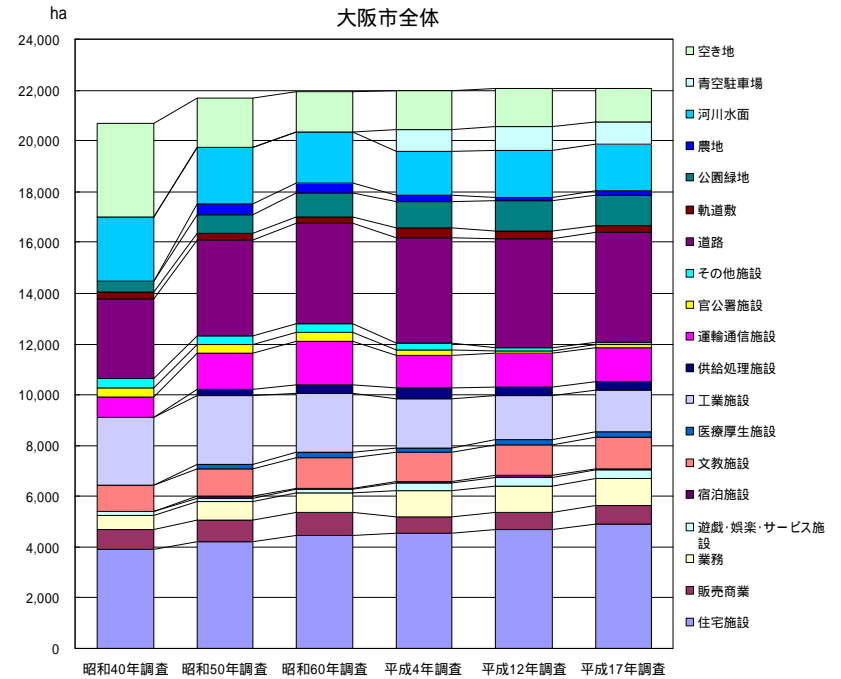
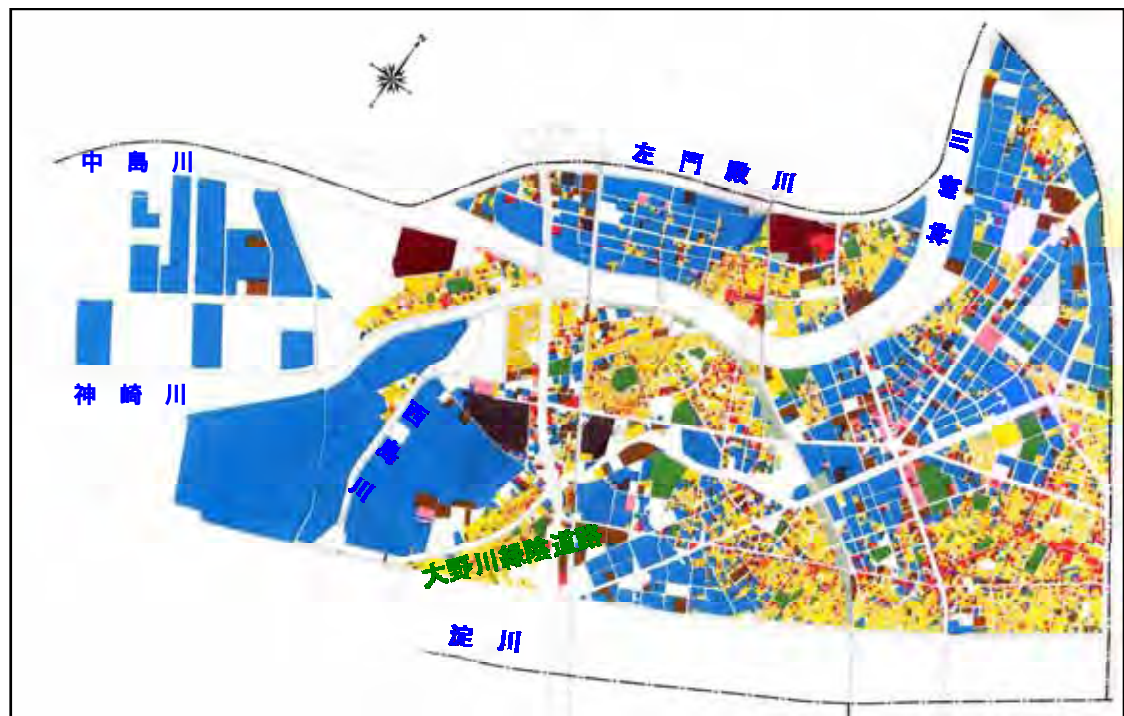


図-2.2.4 大阪市全体と西淀川区の土地利用変化
出典：平成17年度土地利用現況調査 2005年 大阪市計画調整局



凡 例	
	官公署施設
	運輸施設
	供給・処理施設
	文教施設
	医療厚生施設
	興行施設
	遊興宿泊施設
	販売商業施設
	業務施設
	工業施設
	住居施設
	農林漁業施設
	その他の施設

敷地単位に着色。但し、同一敷地内の用途が2以上の場合は主たる用途とする。

図-2.2.5 西淀川区の土地利用現況（昭和50年）
 出典：大阪市建物用途別現況図（行政区別・昭和50年）
 1978年3月 大阪市総合計画局



凡 例 LEGEND	
	一戸建住宅 Detached Houses
	基屋建住宅 Tenement Houses
	共同住宅 Apartment Houses
	販売商業施設 Retail-Wholesale-Commercial Facilities
	業務施設 Offices-Business Facilities
	文教施設 Schools-Temples-Temples Educational Facilities
	医療・厚生施設 Hospitals and Welfare Facilities
	遊興・娯楽・サービス施設 Entertainment/Amusement and Service Facilities
	宿泊施設 Hotels-LoDGings
	工業施設 Factories-Industrial Facilities
	供給・処理施設 Supply-Treatment Facilities
	運輸・通信施設 Transportation-Communication Facilities
	官公署施設 Government-Public Offices
	その他施設 Other Facilities
	公園・緑地・墓地等 Parks-Gardens-Cemeteries
	建物のない土地 Vacant Lots

敷地単位に着色。但し、同一敷地内の用途が2以上の場合は主たる用途とする。

図-2.2.6 西淀川区の土地利用現況（平成17年）
 出典：平成17年度土地利用現況調査
 2005年 大阪市計画調整局

(3) 産業

西淀川区は明治以降から近代工業が集積し、阪神工業地帯の中心となる一大工業地帯となり、重工業を中心とする工場が立地してきました。臨海部は大工場、内陸部に中小企業の町工場が立地しています。

従業員数はこれを反映して第2次産業（特に製造業）で多いのが特徴ですが、重厚長大型工業中心とした時代からの変容にあわせて減少を続け、近年は工場の撤退・廃業が増えて事業所数も昭和63年をピークとして減少してきています。しかしながら、大阪有数の工業地帯として依然としてその規模を誇っています。

第3次産業は時代ともに事業所、従業員ともに増えてきましたが、近年は卸売・小売の事業所が減少してきています。

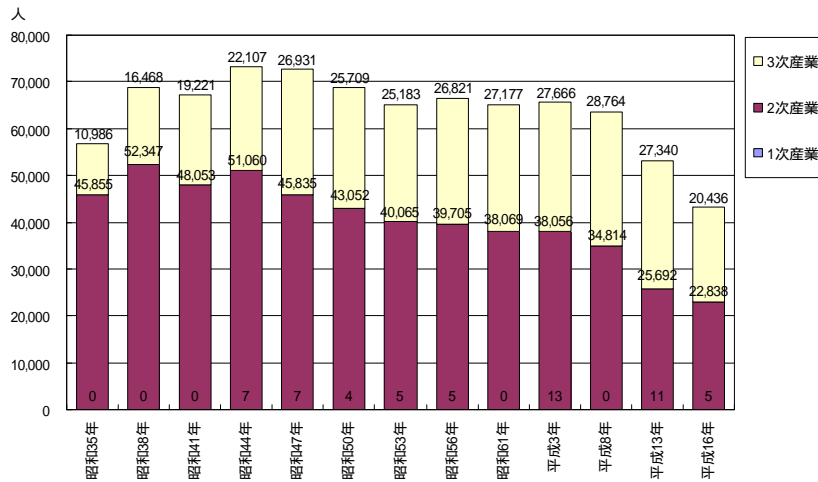
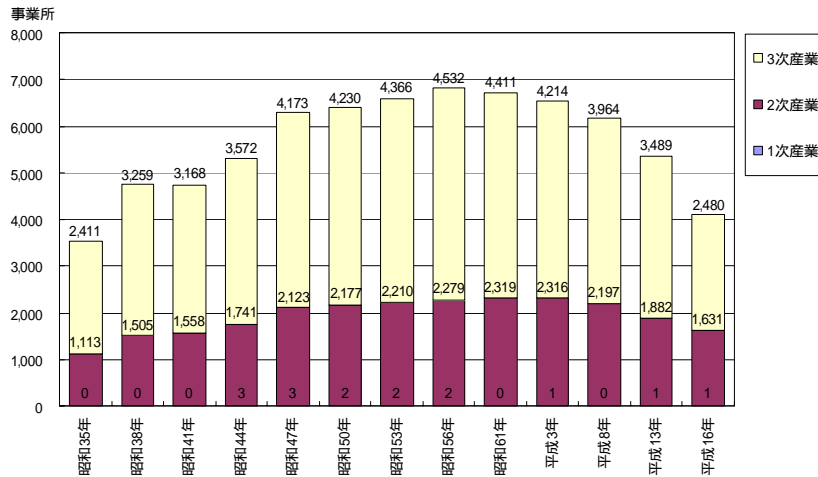


図-2.2.7 西淀川区の産業大分類別の事業所数・従業員数の経年変化
 (備考：事業所として把握困難な、個人経営の農林漁家は計上されていない)
 出典：昭和35年～平成13年：大阪市時系列統計表 平成16年3月 大阪市計画調整局
 平成16年～平成18年：事業所・企業統計調査

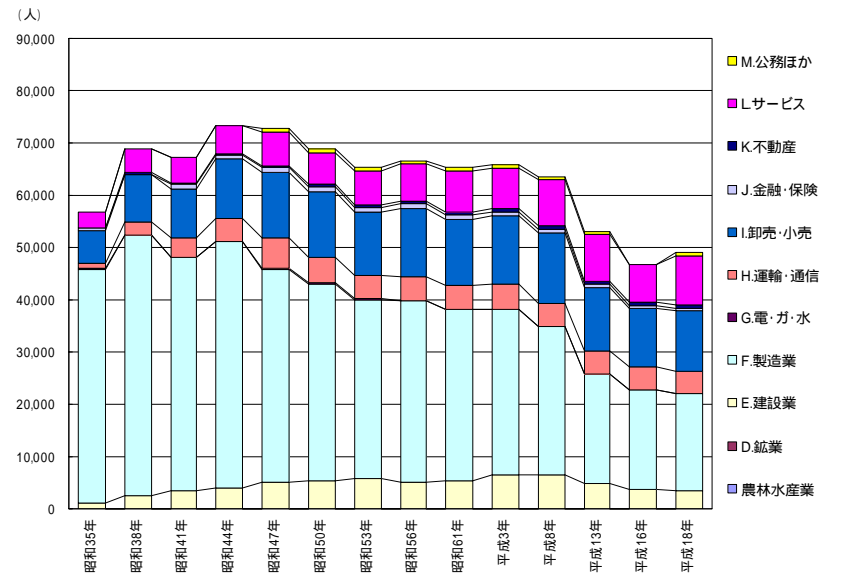
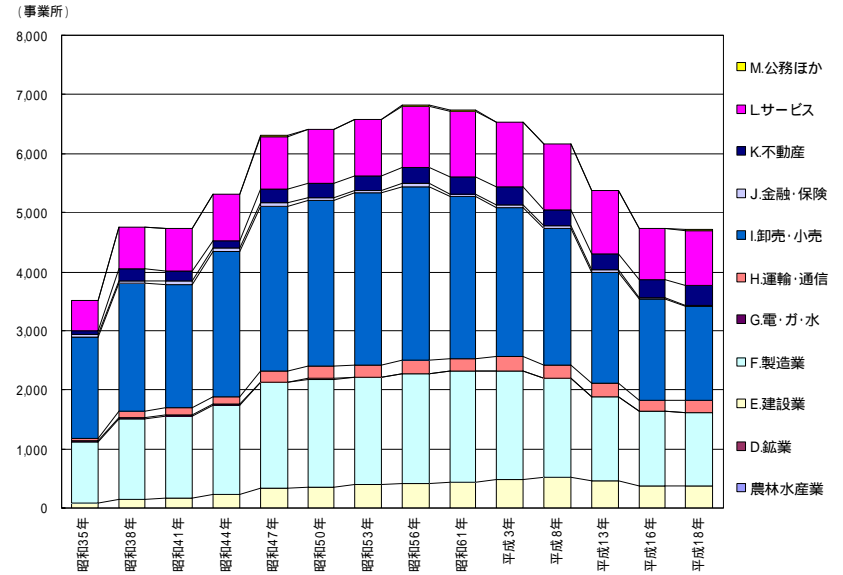


図-2.2.8 西淀川区の産業中分類別の事業所数・従業員数の経年変化
 (備考：事業所として把握困難な、個人経営の農林漁家は計上されていない)
 出典：昭和35年～平成13年：大阪市時系列統計表 平成16年3月 大阪市計画調整局
 平成16年～平成18年：事業所・企業統計調査

農業

西淀川区では、江戸時代初期から幕末の約二百数十年間にかけて新田開発が行われ、米穀や、麦、大豆、野菜類、綿花を栽培していましたが、低湿地帯であったため、高波による農作物への被害が絶えませんでした。その後、大正から昭和初期にかけて都市化が急速に進行し、耕作地が減少しはじめ、昭和25年のジェーン台風による水害で激減しました。

農家戸数は昭和34年には125戸ありましたが、平成2年には1戸のみとなりました。

表-2.2.2 西淀川区の農業状況（平成7年以降は、他区との合計値）

年	農家数					農家人口 (人)	耕作地面積(a)			摘要
	総数	自給的農家	販売農家	専業	兼業		総数	田	畑	
昭和34年	125			27	98	568	2,277	572	1,705	
昭和39年	38			12	26	187	637	60	577	
昭和45年	22			3	19	102	436	81	355	
昭和50年	8			2	6	45	174	75	99	
昭和55年	8			1	7	44	111	51	60	
昭和60年	6			1	5	34	94	53	41	
平成2年	1			0	1	不明	0	不明	不明	
平成7年	4			1	3	15	103	84	19	西淀川区、北区、東成区、西成区(各世帯数1戸)の4区合計値
平成12年	8	5	3	0	3	34	152	91	61	西淀川区、北区、旭区(各世帯数1戸)の3区合計値
平成17年	9	5	4	0	4	25	168	90	78	

平成17年 農家数、農家人口：西淀川区、北区、東成区、旭区、西成区の5区の合計値 出典：大阪市統計書
 経営耕作地面積：西淀川区、北区、東成区、旭区の4区の合計値
 平成7年以前は、全農家を対象に専業兼業別農家数を調査していたが、平成12年以降は全農家のうち販売農家のみを対象に専業兼業別農家数を調査している
 備考：個人経営の農家を含むため、図-2.2.7、図-2.2.8「事業所・従業員数」第一次産業より、「農家数」「農家人口」は値が大きくなる

漁業

西淀川区では、大和田村の漁民が佃村の漁民の力を借りて、徳川家康のために神崎川の船渡しを行ったことにより、大規模な漁業特権を与えられるなど、江戸時代から漁業が盛んでした。明治末期には、大和田の漁民は80軒、大野と百島にそれぞれ40軒を数え、福では400軒のうち半数が漁民でした。戦後、工業化の進行や河川の埋立などにより、漁業従事者は減り続けました。

昭和40年代の大阪港湾開発により大阪市が漁業権を買い上げ、大阪港湾水域での許可漁業のための漁業権は消滅しました。

現在、西淀川区では、自由漁業が行われているのみで、詳細な漁獲高は不明ですが、今なお、生業として漁業を営んでいる方々がおられます。

表-2.2.3 西淀川区の漁業状況

年	経営体数				従事者	使用漁船数				漁獲高				
	総数	個人経営 専業	個人経営 兼業	共同経営		総数	有動力	船外機 付船	無動力	総数 (kg)	魚類 (kg)	貝類 (kg)	その他 (kg)	金額 (千円)
昭和35年	57	26	31		95	62	38		24	187,445	90,014	96,680	751	11,158
昭和40年	69	27	42		120	78	48		30	215,962	124,448	85,257	6,257	
平成10年	45	20	22	3	56	82	43	38	1					
平成15年	20		19	1	35	26	10	16	0					

出典)大阪市統計書(昭和35年版、昭和40年版、平成14年版、平成19年版)

備考：個人経営の漁家を含むため、
 図-2.2.7、図-2.2.8「事業所・従業員数」第一次産業より、「経営体数」「従業者」は値が大きくなる



神崎川の船だまり

工業

西淀川区は三方を河川と海に囲まれ、工業用地として適していることから、区西側臨海部には鉄鋼、金属、機械など重工業を中心とする大規模工場が立地し、内陸部には中小企業の町工場が立地しています。

重厚長大型工業が衰退する社会情勢の中、事業所数は、昭和50年から1,600件台で推移し昭和63年にピークを迎え、平成18年には600件とピーク時の4割弱にまで減少しました。従業員数は昭和35年から減少傾向にあり、平成18年には12,904人と40,306人だった昭和35年の3割強となっています。一方、出荷額は平成2年まで増加傾向にありましたが、以降減少し、平成18年には3,943億円とピーク時の4割強に減少しました。なお、現在においても、西淀川区の製品出荷額は、大阪24区内において淀川区に続く2位であり、市内でも有数の工業地帯といえます。

西淀川区内製造業の業種構成をみると、加工組立型業種が多く集積する一方、生活関連型業種の比率が少なくなっています。

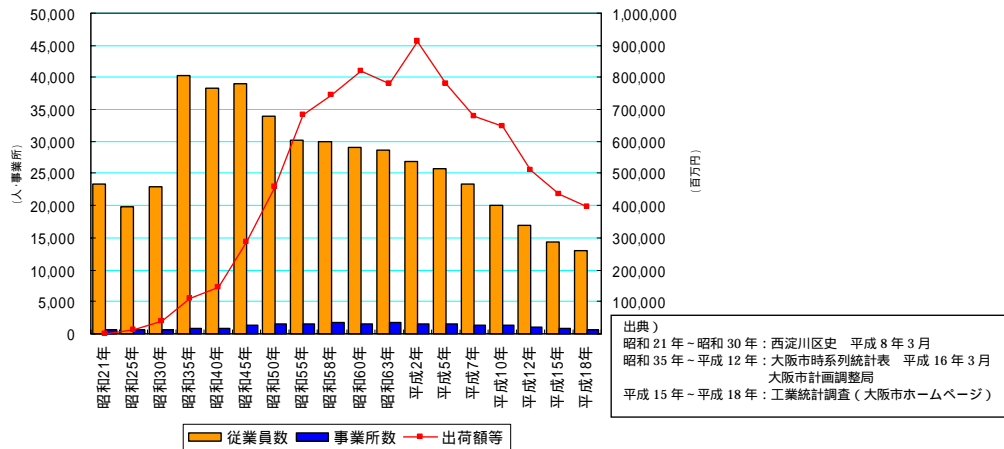


図-2.2.9 西淀川区の製造業 (事業所数・従業員数・製造品出荷額)

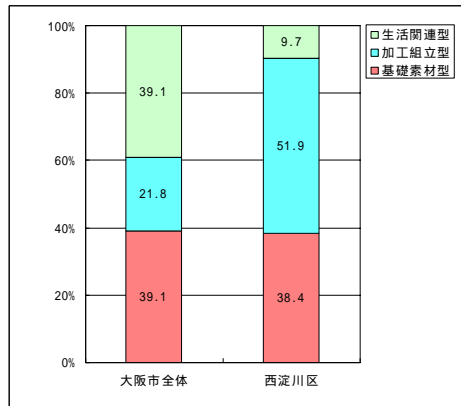


図-2.2.10 大阪市全体と西淀川区の業種構成の比較 (平成18年)

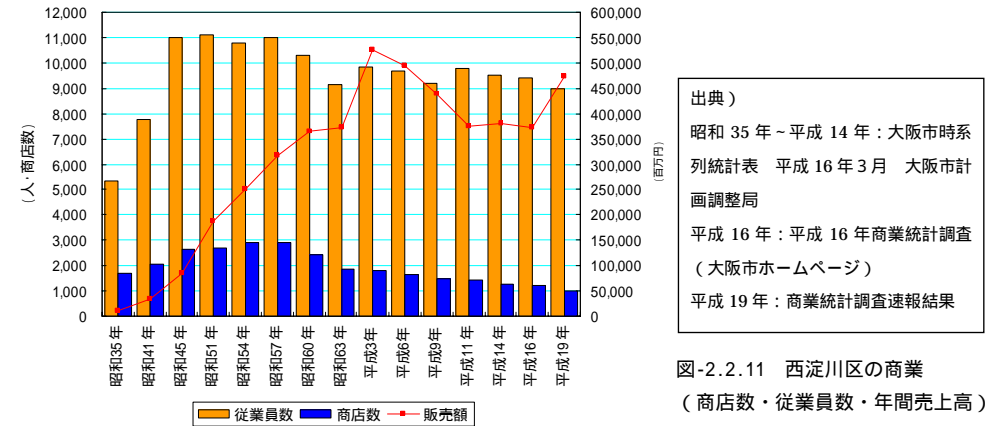
出典：工業統計調査 (大阪市ホームページ)

注) 業種構成は事業所数の構成による
業種類型は下記のとおり
基礎素材型：木材、バルブ、化学、石油、プラスチック、ゴム、窯業、鉄鋼、非鉄金属
加工組立型：一般機械、電気機械、情報通信機械、電子部品、輸送用機械、精密機械
生活関連型：食料品、飲料、繊維工業、衣服、家具、印刷、皮革、その他製造業

商業

工業地区として発展した西淀川区は、問屋業が少なく日常生活に直結する小売業が多いことが特徴でした。戦後は鉄道駅周辺が商業集積の中心でしたが、顧客のライフスタイルの変化に伴い、近年は幹線道路や工場跡地などに駐車場を多く備えた大型店の出店が増え、小規模な商店が減少する傾向にあります。

商店数は昭和57年に、従業員数は昭和51年にピークを迎え、その後、いずれも減少傾向にあります。店舗数が減少する中で、平成に入ってから販売額は昭和期より高額で推移しており、小売業が大型店化している状況が現われていると考えられます。



出典)
昭和35年～平成14年：大阪市時系列統計表 平成16年3月 大阪市計画調整局
平成16年：平成16年商業統計調査 (大阪市ホームページ)
平成19年：商業統計調査速報結果

図-2.2.11 西淀川区の商業 (商店数・従業員数・年間売上高)

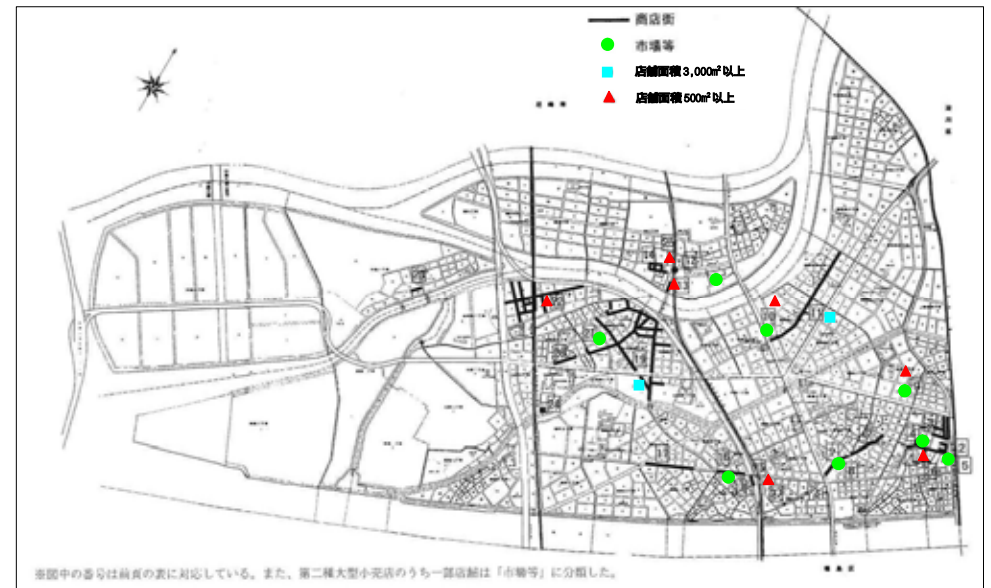


図-2.2.12 西淀川区の商業集積状況

出典：西淀川区まちづくりレポート (平成13年3月) 西淀川区役所 (一部改変) 全国大型小売店総覧 2009

(4) 公共・レクリエーション施設

神崎川下流ブロックにおける公共施設は、官公庁が8箇所（出張所、交番を含めると20箇所） 学習・福祉・集会施設が西淀川区民ホールなど8箇所、郵便局（H19年10月より民間移行）は特定郵便局を含めて13箇所、校舎・保育園は高等学校が3箇所、中学校が4箇所、小学校が13箇所、養護学校と専門学校が各1箇所、幼稚園が6箇所、保育園が13箇所あります。

公共のレクリエーション施設として、区民がよく利用する施設としては「大野川緑陰道路」、「西淀川図書館」があります。魅力のある地域の施設として区民に親しまれているものに「矢倉緑地」、「大野川緑陰道路」、「西淀川区民会館」、「佃ふれあい公園」、「淀川河川敷・堤防」があります。このうち、「矢倉緑地」（平成12年9月にオープン）では散歩や釣りに利用されており、来園者の2割が頻繁に訪れ、その9割が西淀川区の住民です。また、「大野川緑陰道路」は緑豊かな空間として西淀川区のシンボルとなっており、多くの住民が憩いのある散歩道として日常的に利用しています。河川沿いには、「なにわ自転車道」が神崎川左岸を西島川が分流するまでの区間に、「西島川自転車歩行者道路」が西島川左岸を河口付近まで整備されており、市民に利用されています。

公共施設

表-2.2.4 西淀川区の公共施設

官公庁		校舎・保育所	
名称	名称	名称	名称
西淀川区役所	< 高等学校 >	大阪市立淀商業高等学校	
西淀川区保健福祉センター	大阪府立西淀川高等学校	大阪府立西淀川高等学校	
西淀川消防署	大阪福島女子高等学校	< 中学校 >	
佃出張所	淀中学校	淀中学校	
大和田出張所	西淀中学校	歌島中学校	
竹島出張所	歌島中学校	佃中学校	
環境事業局西北環境事業センター	< 小学校 >		
水道局歌島サービスステーション	大阪市立柏里小学校		
都市環境局大野下水処理場	大阪市立野里小学校		
西淀川税務署	大阪市立姫里小学校		
西淀川警察署	大阪市立福小学校		
佃交番	大阪市立大和田小学校		
竹島交番	大阪市立川北小学校		
歌島交番	大阪市立佃小学校		
野里交番	大阪市立香養小学校		
姫島駅前交番	大阪市立歌島小学校		
大和田交番	大阪市立出来島小学校		
福大野交番	大阪市立佃西小学校		
出来島交番	大阪市立佃南小学校		
中島交番	< 養護学校 >		
	大阪市立西淀川養護学校		
	< 専門学校 >		
	修成建設専門学校		
	< 幼稚園 >		
	大阪市立西淀川児童館保育所		
	大阪市立福保育所		
	大阪市立大和田幼稚園		
	御幣島幼稚園		
	田養学園・佃幼稚園		
	光の園幼稚園		
	< 保育所 >		
	大阪市立西淀川児童館保育所		
	大阪市立福保育所		
	大阪市立大和田保育所		
	大阪市立出来島保育所		
	大阪市立香養保育所		
	大阪市立佃保育所		
	大阪市立大和田保育所		
	大阪市立野里保育所		
	聖花保育園		
	青空保育園		
	よどっこ保育園		
	みどり保育園		

出典：西淀川区役所ホームページ

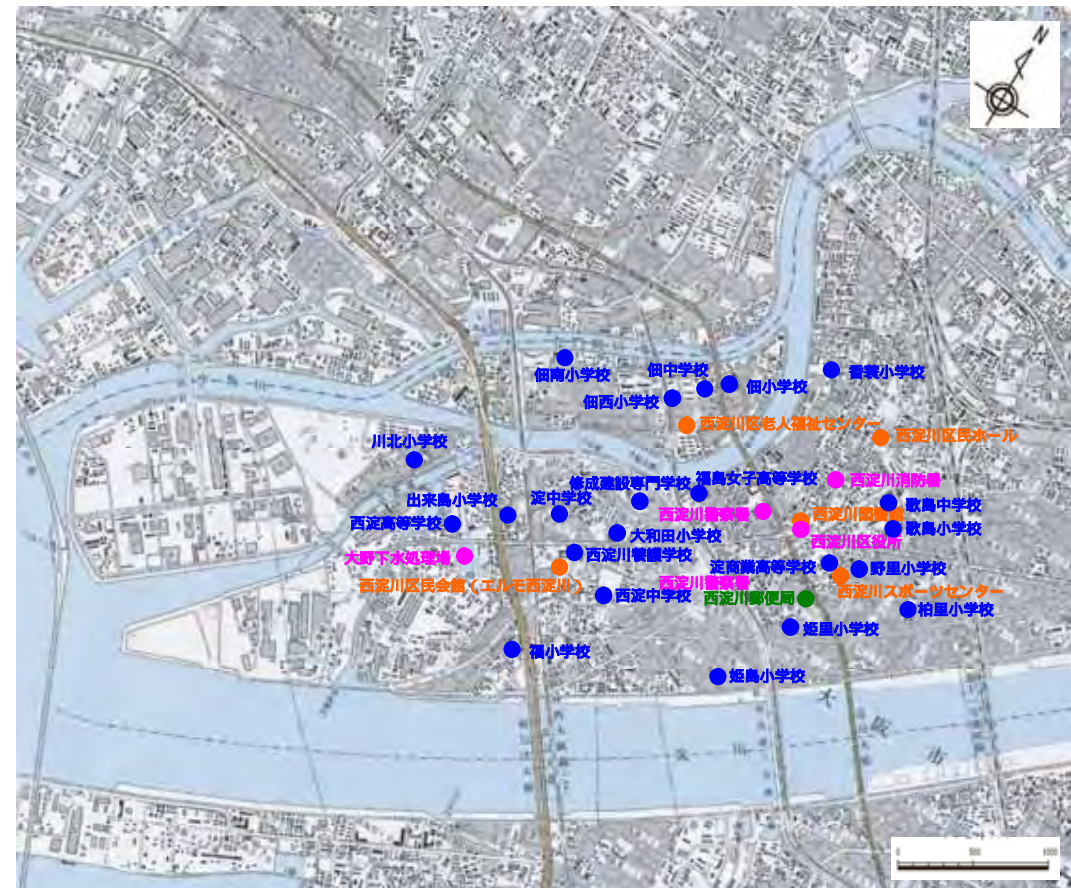


図-2.2.13 西淀川区 主な公共施設位置図

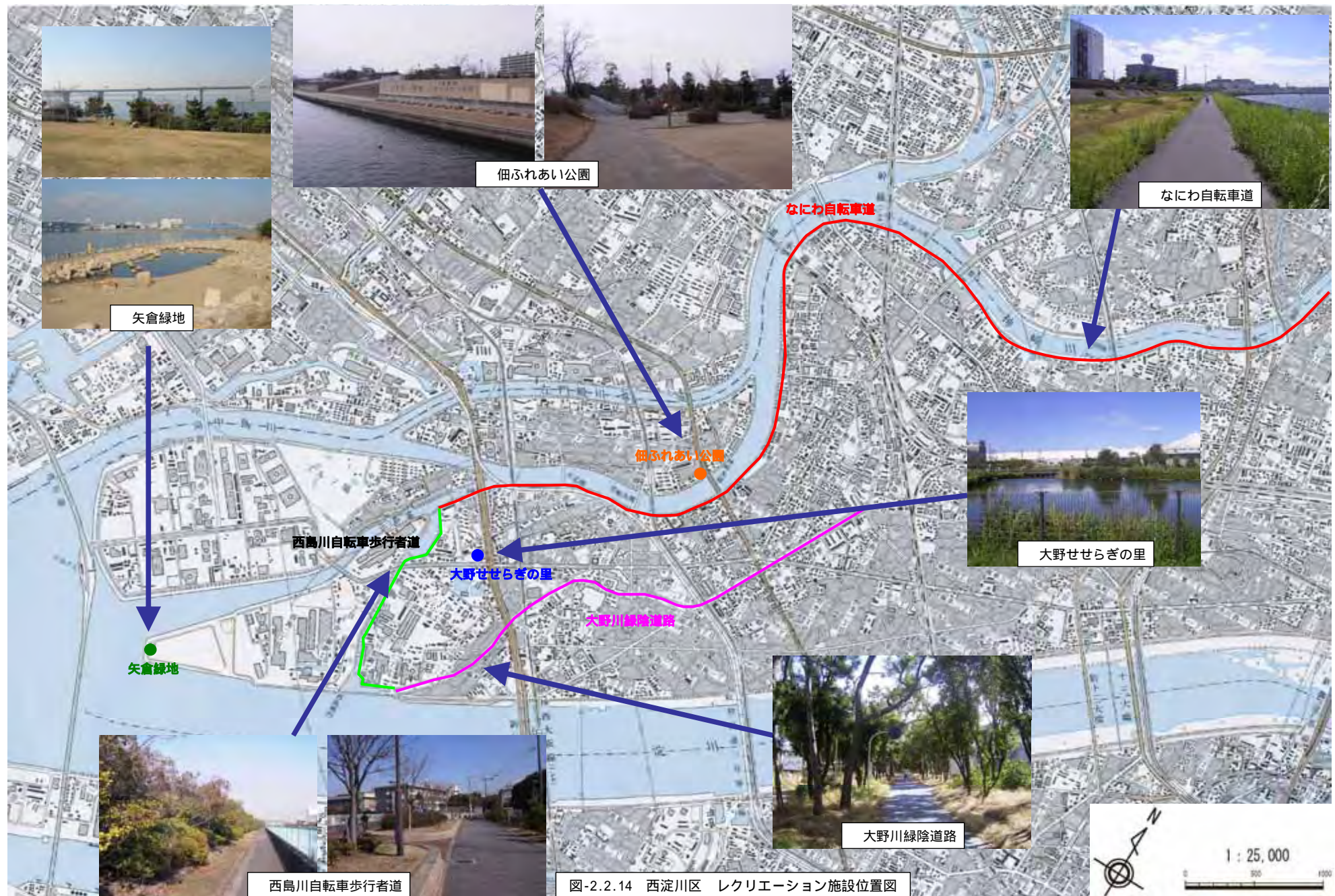


図-2.2.14 西淀川区 レクリエーション施設位置図

(5) 交通

道路

西淀川区は古くから、大阪と中国地方を結ぶ「中国街道」が通る交通の要所で、中津川を渡る「野里の渡し」や、伝法町から辰巳橋までの「大浦の渡し」などの水運も発達し、人の往来が盛んな地域でした。

現在、西淀川区には、阪神高速道路神戸線・湾岸線・池田線の高速道路3線が通っています。また、主要道路として、国道2号、国道43号の南北軸、淀川通、みてじま筋、姫島通等の東西軸があります。

昭和34年から平成17年までの西淀川区における交通量をみると、昭和36年～昭和50年代後半までは、「モータリゼーション」の発展と共に交通量が増えているものと考えられます。その後、平成初頭にかけて交通量が減少したものの、近年の経済情勢等により、再び増加しています。

高速道路を除く区内を通る主要な道路の交通量について、平成17年度の道路交通センサスをみると、国道43号の平日12時間交通量は6万台近くになっています。混雑度を見ると、みてじま筋で2.10と高い数字を示しています。

大型車混入率を見ると、高速道路や広域幹線と連絡している淀川通とみてじま筋では30%以上となっています。市営バスのバスルートであることを考慮しても、かなりの量の大型車両が通行していると推測されます。また、国道43号の調査地点はバスルートではありませんが、32.2%と高い数字を示しています。

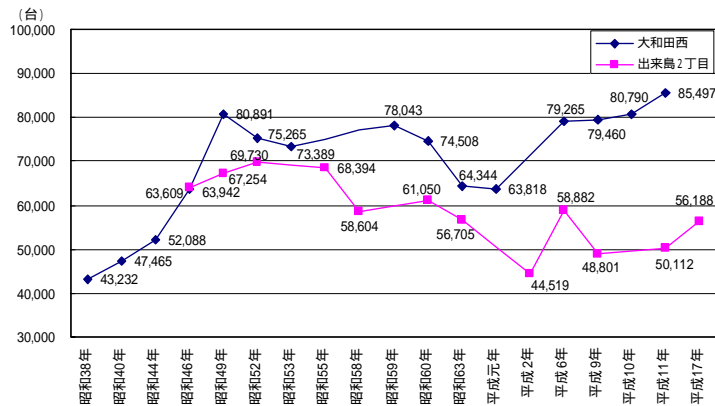


図-2.2.15 西淀川区 自動車交通量の経年変化

出典：大和田西：大阪府警本部「交通量統計表」

出来島2丁目：国土交通省「道路交通センサス」

表-2.2.5 主要道路の自動車交通量等

路線名	観測地点	平日12時間 自動車類交通量	混雑度 1	大型車混入率 2	交通量の伸び (H17/H11)
国道2号	野里2丁目	26,177	1.59	11.8	0.99
国道43号	出来島2丁目	56,188	1.50	32.2	1.12
淀川通(主要地方道大阪池田線)	大和田6丁目	18,305	0.84	33.4	0.97
淀川通(一般市道淀川北岸線)	歌島2丁目	16,772	0.95	21.1	0.87
みてじま筋(主要地方道大阪池田線)	御幣島1丁目	15,086	2.10	30.5	1.11
姫島通(主要地方道福町浜町線)	姫島6丁目	4,775	0.78	20.6	0.91
姫島通(主要地方道福町浜町線)	柏里1丁目	7,657	1.03	12.3	0.91

出典：道路交通センサス(全国道路・街路交通情勢調査)：一般交通量調査《大阪地域版》平成17年度

大阪市建設局土木部工務課

1 混雑度：調査単位区間の交通量に対する交通容量の比

2 大型車混入率：自動車類交通量に対する大型車交通量の割合(%)

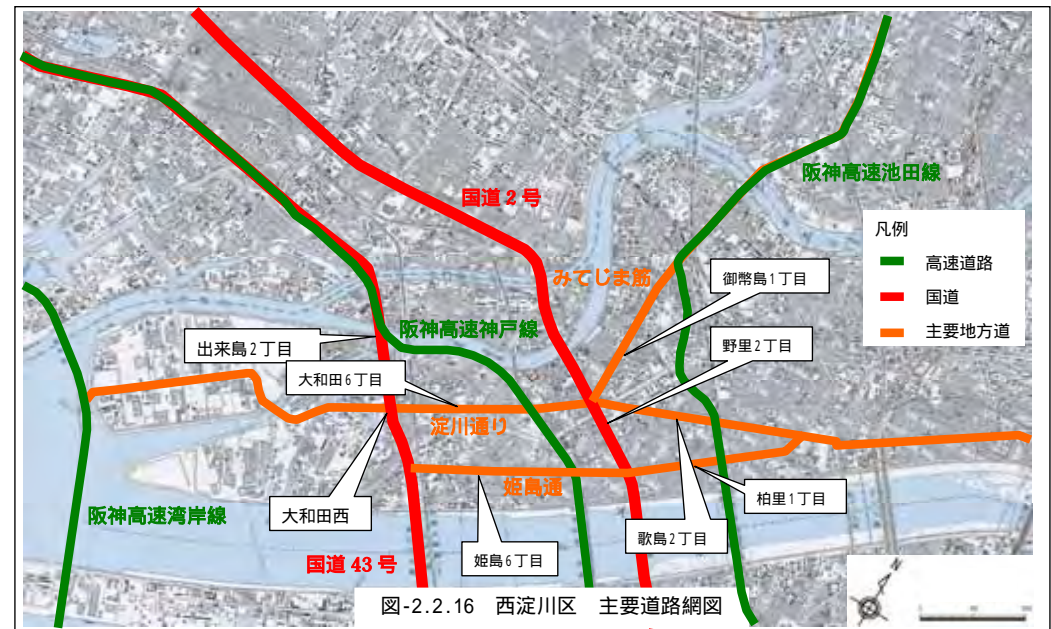


図-2.2.16 西淀川区 主要道路網図

鉄道

西淀川区には、JR東海道本線、東西線、阪神電鉄本線、西大阪線が通り、JR東海道本線塚本駅、JR東西線加島駅、御幣島駅、阪神電鉄本線千船駅、姫島駅、阪神電鉄西大阪線出来島駅、福駅があります。

鉄道利用者数（乗車人数）は、昭和44年には69,400人でピークを迎えましたが、モータリゼーションの発達などにより減少、昭和50年5月に阪神電車国道線が廃線し、昭和59年には51,865人にまで減少しました。その後、平成9年のJR東西線の開通、加島駅、御幣島駅近傍の工場跡地へのマンション建設等による沿線人口の増加により徐々に増加し、平成11年以降は、60,000人程度で推移しています。

平成18年度の各駅の1日当たり乗降客数を見ると、JR塚本駅が最も多く、以下JR御幣島駅、阪神千船駅、JR加島駅、阪神姫島駅、阪神福駅、阪神出来島駅の順になっています。

なお、阪神西大阪線が延伸され、「阪神なんば線」（西九条～近鉄難波）が平成21年春に開通します。それにより、阪神西大阪線沿線の人口増、阪神西大阪線の利用者増が見込まれます。



図-2.2.17 西淀川区 鉄道網図

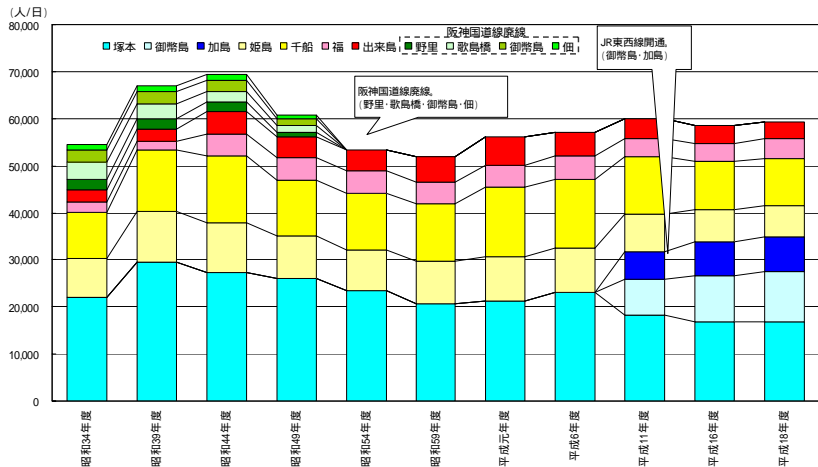


図-2.2.18 鉄道利用の変遷 (乗車人数)

データ：
昭和34年～平成16年度；
大阪市統計書、
平成18年度；
平成十九年度大阪府統計年鑑

バス

現在、西淀川区には、大阪市営バスおよび阪神電鉄バスが運行しています。大阪市営バスでは、西淀川区役所近くの歌島橋バスターミナルを中心に区内各地区を連絡する路線網となっており、南北方向に限られる鉄道を補って、東西方向の交通手段となっています。また、阪神電鉄バスは、甲子園方面から野田阪神を結ぶ国道2号を通る路線があります。なお、平成9年3月まで竹島を通る阪急バスの路線もありましたが、JR東西線の開通と同時に廃止されています。

(西淀川区) 西淀川ループ



主な系統別乗車人員 (平成18年度)

系統名	1日平均乗車人員
西淀川ループ	272 (人/日)
38	715 (人/日)
38A	436 (人/日)
92A	1,059 (人/日)
93A	282 (人/日)
97	9,019 (人/日)



図-2.2.19 大阪市営バス路線図

出典：大阪市交通局ホームページ

2.3 流域の歴史

西淀川区の文化財としては、「大阪市顕彰碑」の“野里の渡し”、“佃漁民ゆかりの地”をはじめ、“大浦の渡し跡”、“中島大水道跡碑”、“大塚切れ洪水碑”といった川にまつわる多くの史跡があります。また、川や海との関わりを思い起こさせる伝承、地名も多く、地域住民に誇りと愛着を感じさせる要素となっています。

(1) 歴史・文化財

表-2.3.1 西淀川区の文化財・史跡

文化財種別		
No.	文化財名称	出典
大阪市顕彰碑		
1	野里の渡し（榺の橋）	A
2	佃漁民ゆかりの地	A
3	判官松伝承地	A
埋蔵文化財包蔵地		
4	大和田城跡伝承地	A
その他文化財・史跡・碑		
5	一休和尚の足跡	B
6	一寸八分の阿弥陀仏	B
7	「池永家」住宅	B
8	海の守護神	B
9	大浦の渡し跡	B
10	野里の一夜官女（大阪府選択）	A
11	人身御供の乙女塚	B
12	紀貫之の歌碑	B
13	初代心齋橋・新千船橋跡	B
14	旧町名継承碑「北西島町」	B
15	旧町名継承碑「布屋町」	B
16	城島のくさ神	B
17	天神社趾碑	B
18	中島大水道跡碑	B
19	西成大橋親柱の碑	B
20	万葉の歌碑（姫島神社内）	B
21	万葉の歌碑（大和田住吉神社内）	B
22	判官松の跡碑	B
23	大塚切れ洪水碑	B

出典：A「大阪の文化財 大阪市」

B「わがまち西淀川 2005年版 西淀川区役所」

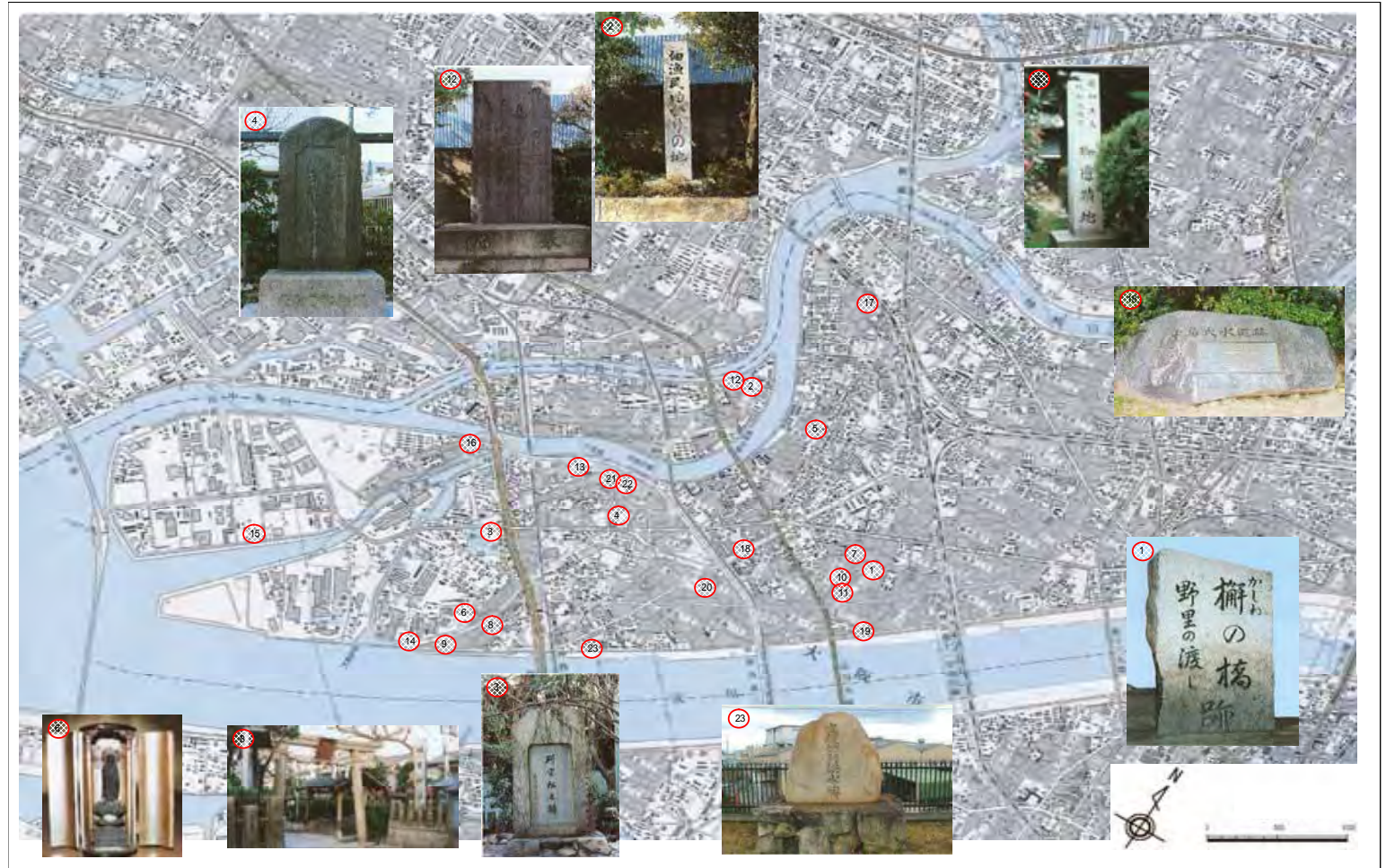


図-2.3.1 西淀川区 文化財・史跡等位置図

伝承

西淀川区には、臨海部に位置していたこともあり、舟運や漁業にまつわる伝承が多い。

柏里と柏の葉

神功皇后が朝鮮半島に向かわれるにあたり、この地を通過したとき、里人がつきたての餅を柏の葉にのせて献上したといわれます。これが柏里の名の起りだと伝えられますが、一説には5世紀前半仁徳天皇の30年9月、皇后が能野詣の帰途、かの地から持ち帰った柏の葉をここで捨てたことに因んだともいいます。

御幣島と神功皇后

むかし神功皇后が住吉神社に奉獻された島の中に幣島と呼ばれた島があります。これは三韓から朝貢を運んできた船が、このあたりで難船の危機にあったことから、この島に姫神を祀ったと住吉神社記にあります。また一説には、神功皇后が朝鮮半島に向かわれるの帰途、ここで御幣を調整し、国の安寧を祈ったとも伝えられています。これが御幣島の語源です。

佃千軒の漁民

佃は往時田竊島と呼ばれていました。足利義隆の1364年(貞治3年)住吉詣記に「田竊島の南に当り、野田の玉川という所あり」と記されています。また宗祇法師の名所方角抄には「田竊島は天王寺の西、成女の方よりの海浜なり」とあって、佃は佃千軒と呼ばれるほど、たくさん漁民が集っていました。付近ではエブナ、シラウオ、イカナゴがよくとれ、特にエブナはその味が優れていて有名であったといえます。

野里の島村蟹

野里の開発は南北朝時代と伝えられています。嘉吉2年(1442年)にこの地の一部が崇徳寺に寄進されましたが、その書状には「摂州中嶋野里庄」とあります。この地には「島村蟹」の伝説があります。

1531年(享禄4年)島村左馬助がこの地において戦いに破れ、多くの家臣もまた討たれました。その時左馬助は敵2人を岡脇にかかえて野里川にとびこんで死んだといわれます。その怨念が残って、以来この川には武者の怒ったような顔の甲羅をした蟹が見られるようになり、人々はこれを島村蟹と呼んだと摂陽群談に記されています。



大和田の鯉つかみ

佃、大和田、百島、福にかけての鯉漁は古くから「大和田の鯉つかみ」と呼ばれて有名でした。摂津名所図会にも「何となく鯉は浮きけり春の水」という句があって、鯉つかみののどかな風景がしのべれます。



出典：My Town 西淀川 西淀川区役所



当区は、神功皇后との関わりが深かったことが伝えられていることから、神功皇后が朝鮮半島へ向かわれる折の様相を創造し、明治時代に作られた豪華な東町地車の刺繍飾幕(前幕) - 写真 - が現在、姫嶋神社に所蔵されています。

出典：My Town 西淀川 西淀川区役所



図-2.3.2 西淀川区 伝承地名位置図

水辺の暮らしの名残

西淀川区の原風景は水郷地帯であり、川と海に囲まれた中で人々の暮らしが営まれてきました。かつては大小 8 つの河川が区内を流れていましたが、中津川、大和田川、大野川は埋め立てられ、現存するのは神崎川、中島川、左門殿川、西島川、淀川となっています。

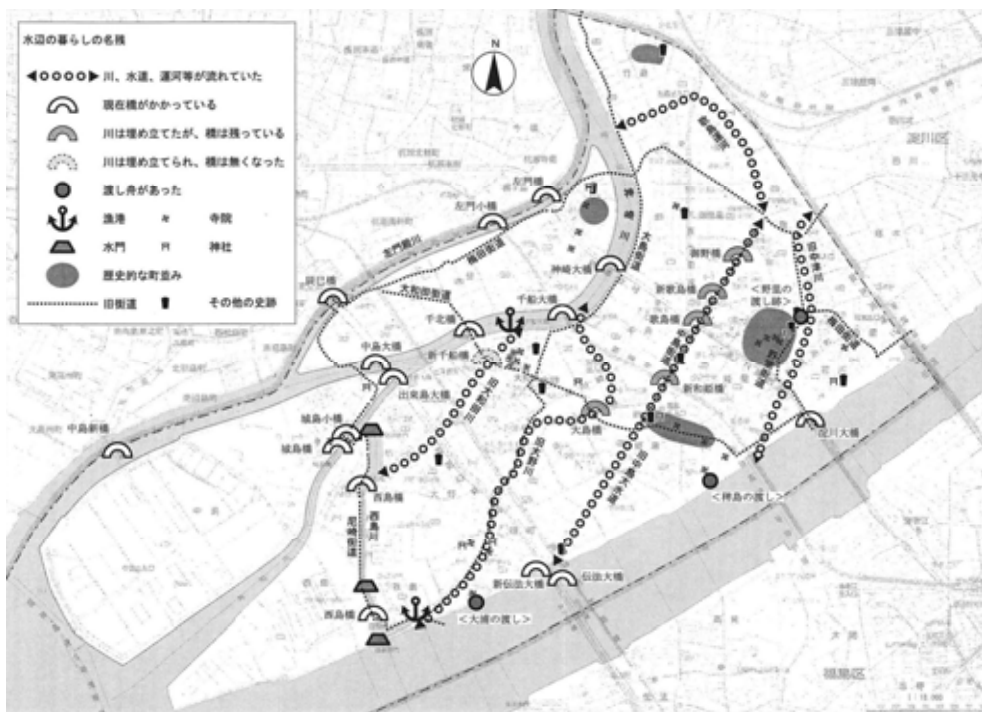


図-2.3.3 西淀川区における水辺の暮らしの名残

出典：西淀川区まちづくりレポート（平成 13 年 3 月） 西淀川区役所

(2) 行事・イベント

西淀川区は、川と海に囲まれた土地柄、河川に関するイベントが多くあります。野里住吉神社の「一夜官女祭」は、河川が氾濫した際の人身御供の名残として有名です。

表-2.3.2 西淀川区における行事・イベント

開催月	行事名	時期	開催場所
1月	淀川十日戎	1月9日～11日	野里住吉神社
2月	にしよどふれあいフェスティバル	2月第3木曜日、金曜日	老人福祉センター
2月	一夜官女祭	2月19日、20日	野里住吉神社
3月	防災のつどい	3月第2木曜日	西淀川区民ホール
6月	大野川緑陰道路クリーン大作戦		大野川緑陰道路
7月	防潮鉄扉の開閉訓練		防潮鉄扉
8月	なにわ淀川花火大会	8月第1土曜日	淀川河川敷
9月	大野川緑陰道路クリーン大作戦		大野川緑陰道路
11月	西淀川区まちづくり体感フェスタ		
12月	大野川緑陰道路クリーン大作戦		大野川緑陰道路
毎月	矢倉海岸定例探鳥会	毎月第1土曜日	大野川緑陰道路、矢倉海岸、他

出典：区民発！にしよどがわガイドブック（平成 20 年 3 月） 西淀川区役所

2.4. 河川特性

(1) 河川区間

神崎川下流ブロックの河川区間は、猪名川合流後の神崎川と、神崎川から分派する左門殿川、中島川、西島川の4河川で構成され、大阪湾に注ぐ神崎川が最長の6.9kmの延長となっています。分派した左門殿川は中島川に合流し、中島川は大阪湾に注ぎ、西島川は神崎川から分派して淀川に合流します。また、西島川は出来島水門により、洪水や高潮が神崎川から流入あるいは神崎川へ流入を生じさせないことができるようになっています。

川幅は、神崎川は200m以上～100m未満、左門殿川は100m、中島川は200～180m、西島川は100～200mとなっています。河床材料は全川でシルト～細砂の構成です。

全川感潮区間であり、年平均の塩素イオン濃度は左門殿川分派前の神崎橋で1,000～3,000mg/L、神崎川千船橋で3,000～5,000mg/L、中島川合流前の左門殿川辰巳橋で4,000～5,000mg/L(平成12～19年の観測値)であることから、淡水と海水が混じり合った塩分の少ない区域(汽水域)となっていることが分かります。

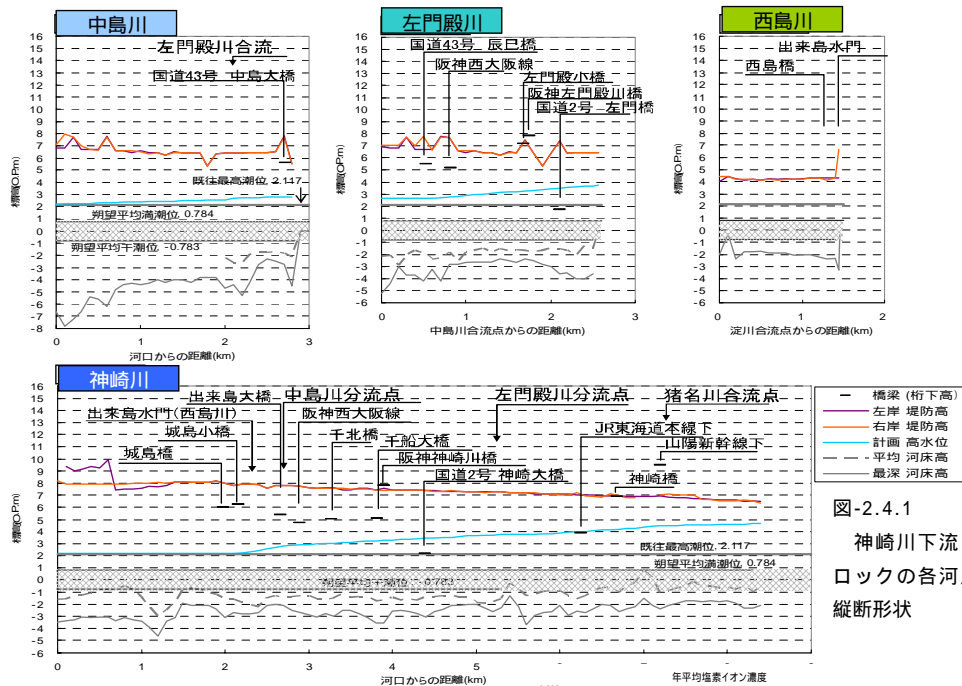


図-2.4.1 神崎川下流ブロックの各河川縦断形状

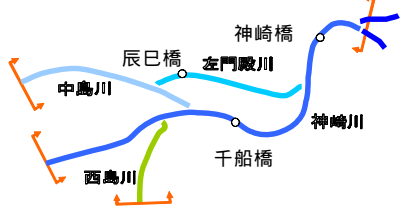
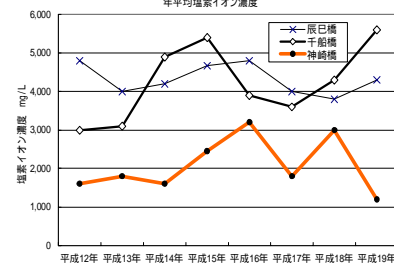


図-2.4.2 塩素イオン濃度の年平均値(平成12～19年)



(2) 河川景観

神崎川下流ブロックは、感潮区間であり高潮対策事業による防潮堤に視界が遮られていることから、堤内地からは河川が見えず、河川景観上考えれば、橋梁からの眺望に限られた状況にあります。

しかし、なにわ自転車道などの高水敷を利用した自転車歩行者道や、佃防災船着場のような水面に近づける施設整備がなされ、河川の風景を眺望できる場所が増えつつあります。

また、矢倉緑地から眺める夕景は、阪神高速道路湾岸線のシルエットを浮かび上げさせ、西淀川区の新しいシンボルとなっています。



写真-2.4.1 防潮堤状況(1)



写真-2.4.2 防潮堤状況(2)



写真-2.4.3 橋梁からの眺望(神崎川・城島小橋)



写真-2.4.4 佃防災船着場



写真-2.4.5 矢倉緑地からの眺望

出典: 西淀川区役所ホームページ

(2) 水環境
水質

神崎川下流ブロックの水質観測は、神崎川の「神崎橋」及び「千船橋」、左門殿川の「辰巳橋」の3地点において実施されています。神崎川は水質環境基準類型の「B類型」(BOD: 3mg/L以下) 達成期間「5年以内で可及的速やかに達成」に指定されています。

昭和40年頃の水質は非常に汚濁した状況でしたが、昭和42年に大野下水処理場が供用開始されるとともに、昭和45年に閣議決定により水質環境基準類型「E類型」(BOD 10mg/L以下)に指定され、昭和50年代にこの環境基準を達成するようになりました。

平成年代に入るとBOD75%値は3.0mg/L前後を推移し、平成13年には水質環境基準類型指定が「B類型」に見直された後、平成16年以降でBOD75%値が3.0mg/Lを下回っています。

平成19年の速報値では、BOD75%値は神崎川で2.1mg/L、千船橋で2.0mg/L、辰巳橋で2.3mg/Lとなっています。これらの水質の改善は、大野下水処理場をはじめとする下水道整備による効果が大きいものと考えられます。

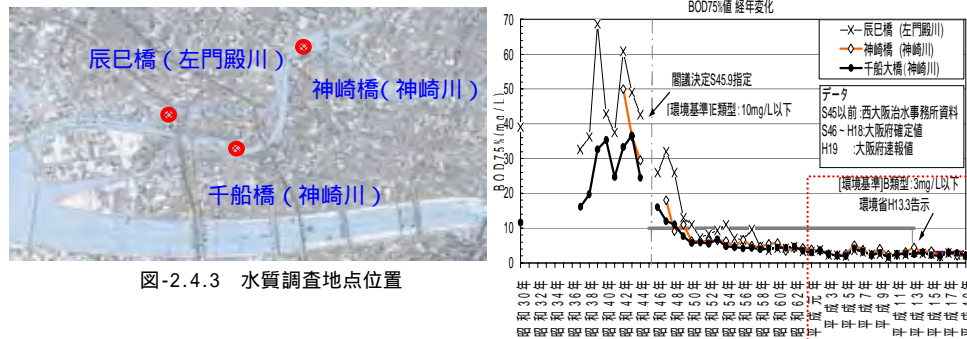


図-2.4.3 水質調査地点位置

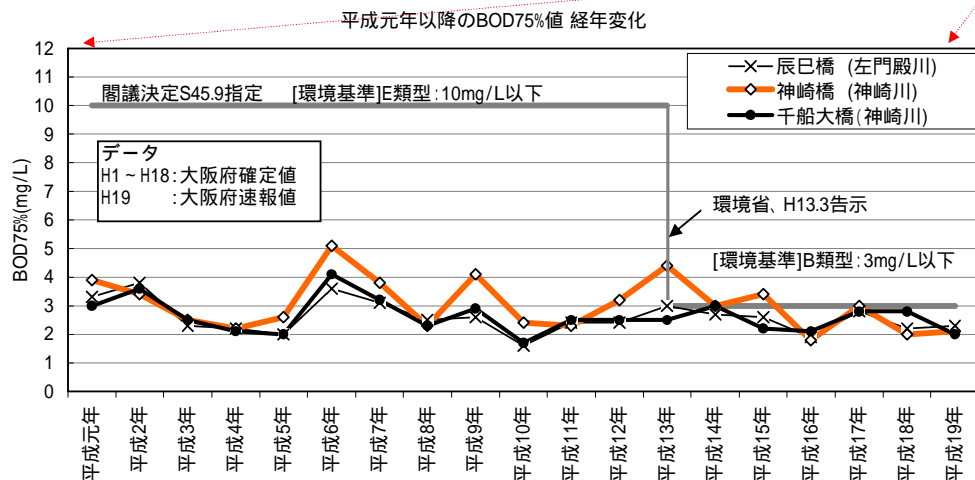


図-2.4.4 BOD75%値 経年変化図

下水道整備

大阪地域の下水道事業は、大阪市による明治27年の中央部下水道改良事業に始まり、その後、都市計画第1期～第5期下水道事業、下水道整備10か年計画事業、第1次～第9次下水道整備5か年計画事業などにより整備が進められてきました。

西淀川区は、単独下水道計画区域の大野処理区域に属し、下水道普及率は、ほぼ100%に達しています。

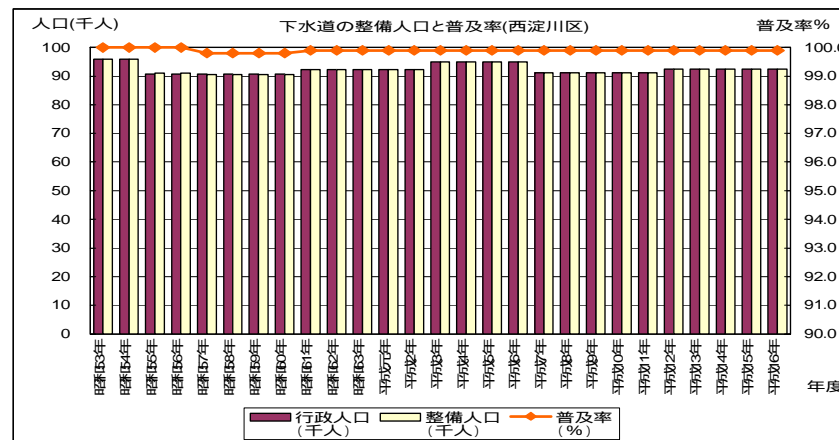


図-2.4.5 下水道普及率の経年変化

出典：国勢調査

表-2.4.1 大野下水処理場 諸元

平成19年3月31日現在

計画処理区域	単位	大野処理場	摘要
計画決定年月日	ha	1,859	
全体計画処理面積	ha	1,859	
全体計画処理人口	人	247,800	
全体計画処理能力	m ³ /月	240,000	
全体計画処理水量	m ³ /日	240,000	
下法認可年月日		昭和37年3月31日 平成16年3月30日	
認可処理面積	ha	1,859	
認可処理人口	人	247,800	
認可処理能力	m ³ /日	240,000	
認可処理水量	m ³ /日	240,000	
処理方式		嫌気好気活性汚泥法 擬似嫌気好気法	
処理開始年月日		昭和42年11月1日	
実排水面積	ha	1,753	
整備面積	ha	1,753	
計画区域内現在人口	人	223,051	
整備人口	人	223,045	
計画区域内の普及率	%	99.9	
水洗化人口	人	223,032	
平成18年度処理能力	m ³ /日	280,000	
平成18年度処理水量	日平均m ³ /日	172,136	

出典：大阪府下水道統計 平成20年3月

表-2.4.2 公共下水道ポンプの現況

ポンプ場(抽水場)		大野処理場内	塚本	西島	竹島	中島	中島第二	佃第一	佃第二
汚水中継先			大野	大野	大野	大野	大野	大野	大野
供用開始年月日		昭和42年11月1日	昭和27年6月1日	昭和25年	昭和40年6月3日	昭和53年7月12日	平成4年4月1日	昭和22年	昭和34年3月12日
排除方式		合流(一部分流)	合流	合流	合流	合流	分流	合流	合流
計画面積	雨水(ha)	1,387	205		13	53	142	0	0
	汚水(ha)	1,859	727	108	116	53	142	23	88
計画能力	雨水(m³/秒)	84	20		6	6	12		
	汚水(m³/日)	1,282,176	584,064	67,392	96,768	38,880	20,736	20,736	85,536
雨水放流先		神崎川	新淀川	西島川	神崎川	中島川	神崎川	左門殿川	左門殿川
平成18年度末能力	雨水(m³/秒)	22	38	1	11	6	12	0.3	9
	汚水(m³/日)	1,282,176	584,064	67,392	96,768	38,880	20,736	20,736	85,536

凡 例	
	市域界線(市街化区域界線)
	認可処理区域界線
	計画集水区域界線 (但し一部自家排水区域を含む。)
	分流式区域
	処理告示界線(18年4月1日現在)
	主要な管渠並びに管渠式雨水貯水池 計画
	主要な管渠並びに管渠式雨水貯水池 既設(18年3月末)
	流域下水道並びに他都市公共下水道主要な管渠
	河川施設 計画
	河川施設 既設
	吐口 計画
	吐口 既設(18年3月末)
	流域下水道吐口
	処理場及び抽水所 計画
	処理場及び抽水所 既設(18年3月末)
	流域下水道並びに他都市公共下水道処理場及びポンプ場
	雨水吐口 既設(18年3月末)、計画

出典：大阪府下水道統計 平成20年3月 大阪府

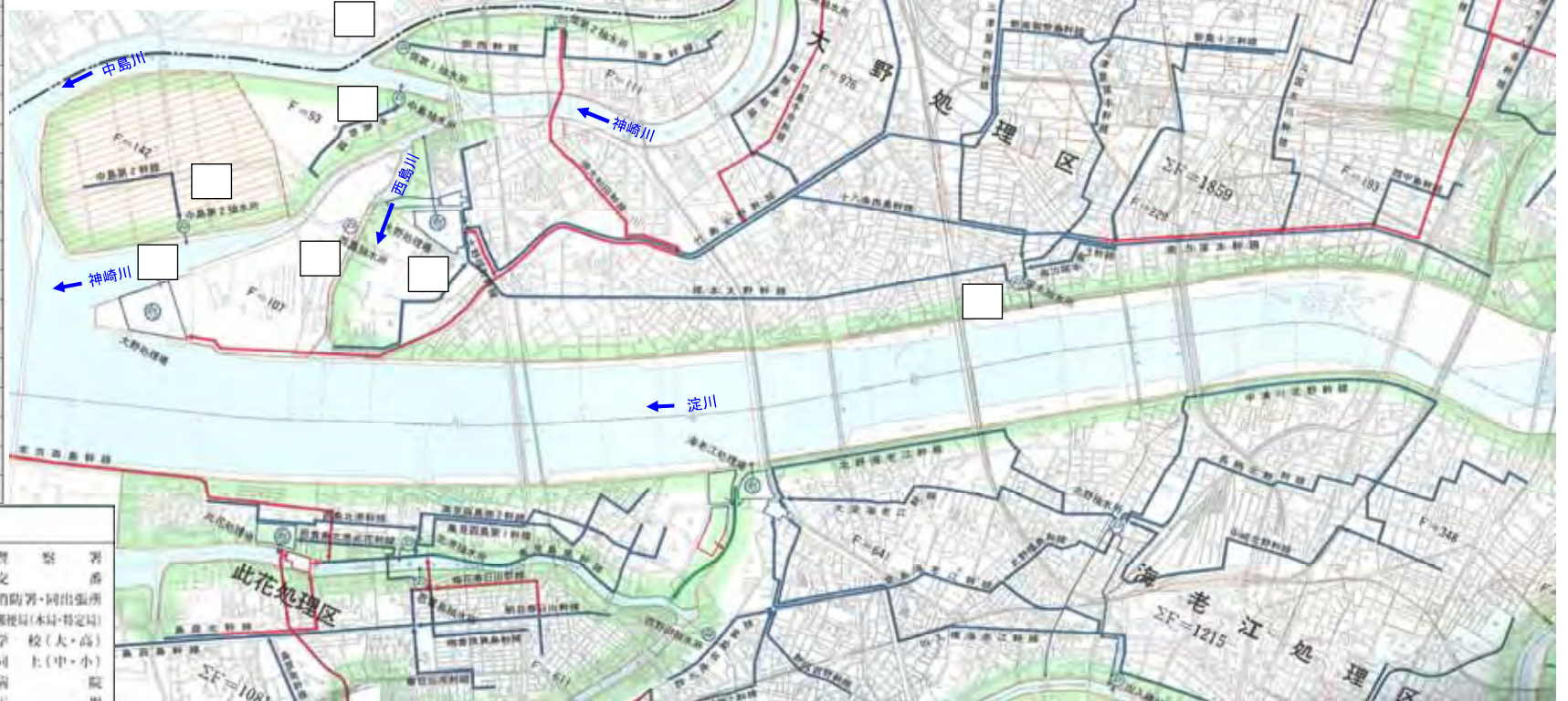


図-2.4.6 大野下水処理区平面図

出典：大阪市下水道事業計画一般図(平成18年3月)

凡 例			
	府 界		警 察 署
	市 界		交 差
	区 界		消防署・同出張所
	町 界		郵便局(本局・特定局)
	丁目界		学 校(大・高)
	JR 鉄道線		同 上(中・小)
	鉄 道 線		病 院
	市営高速鉄道(地下鉄)		仁 施 院
	電 車 線		神 社
	橋 梁		寺 院
	区役所・同出張所		池
	公共施設・主な建物		

○ 淀の大放水路

神崎川下流ブロック周辺は、河川への流入がない、内水域となっています。そのため、近年増加している都市型の浸水被害の抜本的な対策として、「淀の大放水路」の建設が平成3年3月から始められています。

淀の大放水路は、最大内径7.5m、総延長22.5kmの下水道幹線、で、西淀川区と淀川区の大部分を受け持つ大野処理区と東淀川区と淀川区の一部を受け持つ十八処理区に分けられます。神崎川下流ブロックが位置する大野処理区では、宮原立坑を起点として新設する大野下水処理場内ポンプ場に至る延長約10kmの十八条～西島下水道幹線と、これに接続する延長約4kmの新高～御幣島下水道幹線を建設します。神崎川下流ブロックにおいてこの幹線に集められた雨水は、毎秒105立方メートルの排水能力を有する大野下水処理場内ポンプ場から神崎川に排水されることになっています。

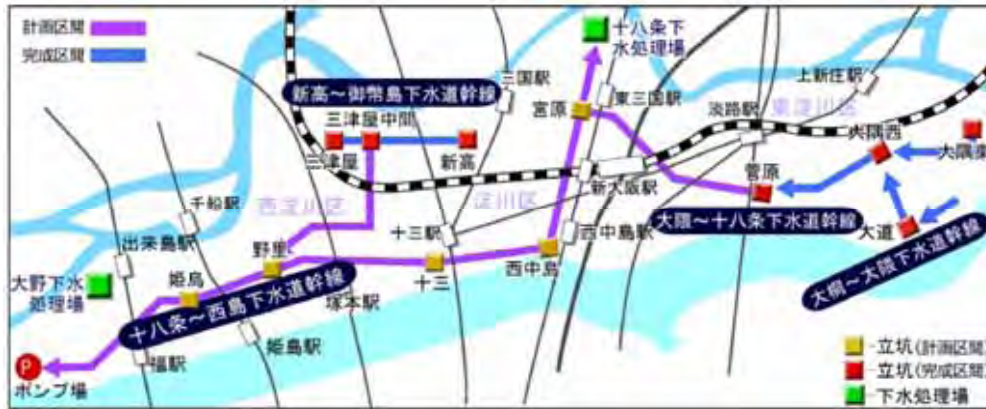


図-2.4.7 淀の大放水路の路線図
出典：大阪市ホームページ



図-2.4.8 淀の大放水路の建設状況
出典：大阪市ホームページ

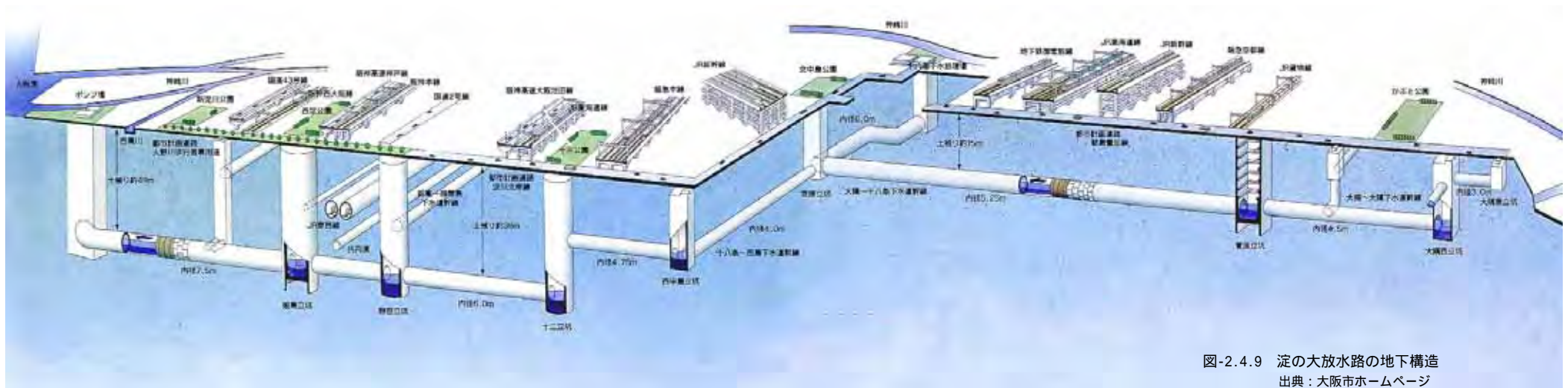


図-2.4.9 淀の大放水路の地下構造
出典：大阪市ホームページ